

照 会 先	法人格 特定非営利活動法人 地域ケア政策ネットワーク 団体名 全国キャラバン・メイト連絡協議会 担当者名 土屋 電話番号 Tel03-3266-0551 Fax03-3266-1670 E-mail caravanmate@orange.email.ne.jp
-------------	--

平成31年1月31日  
全国キャラバン・メイト連絡協議会  
事務局長・菅原 弘子

## 認知症サポーターキャラバン 平成30年度 表彰・報告会 のご案内

拝啓

厳寒の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

また、平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、当連絡協議会では「認知症サポーターキャラバン 平成30年度 表彰・報告会」を開催いたします(プログラム参照)。

昨年末に全国で1,100万人を超えた認知症サポーターが地域で展開している優良活動事例の表彰・報告、キッズサポーターの創意工夫溢れる創作・活動報告の表彰、またサポーター養成数において優れた実績のあった自治体及びキャラバン・メイトの表彰をいたします。

つきましては、下記の通りご案内申し上げます。是非ご参加、取材していただきますようお願い申し上げます。

敬具

### 記

主催：全国キャラバン・メイト連絡協議会

日時：平成31年2月2日(土) 13:00～17:00

会場：砂防会館 別館シェーンバツハ・サポー(定員約1000人)  
東京都千代田区平河町2-7-5

内容：プログラム参照

参加費：無料

※当日、参加された方にのみスペシャルリング\*、エコバッグを提供いたします。

\*表彰・報告会でのスペシャルリングの提供は今年度限りです。

以上

# 認知症サポーターキャラバン 平成30年度 表彰・報告会 プログラム(予定)

13:00～13:05 開会挨拶 全国キャラバン・メイト連絡協議会 代表 菅原 弘子  
来賓挨拶 厚生労働省 老健局長 大島 一博

## 〈第1部〉【表彰】と実践報告

今年度、全国で約1100万人に達した認知症サポーター。今やサポーターは地域で認知症の人やその家族を支える担い手として欠かせない存在となっている。サポーターの活動の先進的事例、サポーターの活動を推進するステップアップ講座展開工夫事例等を表彰し、全国のサポーター、メイトの活動のヒントとなる実践例を報告する。

### 13:05～13:35 表彰式

総評 優良事例等選考委員会 委員長 大森 彌  
サポーター講座開催回数上位キャラバン・メイト 7名  
認知症サポーター養成状況 上位自治体 4自治体  
キッズサポーターによる創作・活動 14団体・個人  
優良活動事例 10団体  
サポーターの活動(自治体・企業)  
ステップアップ講座展開事例

### 13:35～15:35 実践報告

15:35～15:45 10分 休憩

## 〈第2部〉【講演・報告】

認知症を正しく理解することを契機に、地域に根差した活動を実践している認知症サポーターが日本全国で多数誕生している。2019年度の厚生労働省の概算要求においても、認知症の人と認知症サポーターの活動を結びつける事業の構築が盛り込まれている折、認知症サポーターの養成数や活動状況が地域住民の日常にどのような効果をもたらしているか、その可能性を最新データに基づき検証する。

### 15:45～16:45 データからみる認知症サポーターの可能性

～認知症サポーターを地域の活性剤とする

日本福祉大学 社会福祉学部 社会福祉学科  
准教授 横山 由香里

### 16:45～17:05 「認知症サポーターが実践している活動」についての アンケートレポート(暫定版)

全国キャラバン・メイト連絡協議会 代表 菅原 弘子

### 17:05 閉会

## 認知症サポーター養成講座 開催回数上位キャラバン・メイト

●住民 部門

(介護相談員、認知症の人を対象する家族の会、民生児童委員、ボランティア等)

川原 マリコ (広島県尾道市) 年間講座開催数 22 回

●住民 部門

(介護相談員、認知症の人を対象する家族の会、民生児童委員、ボランティア等)

内海 俊司 (兵庫県たつの市) 年間講座開催数 22 回

●医療従事者 部門 (医師、看護師等)

中村 文雄 (新潟県上越市) 年間講座開催数 36 回

●介護従事者 部門

苅谷 由紀子 (茨城県つくば市) 年間講座開催数 32 回

●行政機関等 部門

(行政職員、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員等)

菅原 真子 (岩手県花巻市) 年間講座開催数 68 回

●企業 部門

尾崎 雅子 (朝日生命保険相互会社) 年間講座開催数 25 回

●企業 部門

野口 秀行 (日本生活協同組合連合会) 年間講座開催数 25 回

選考にあたっては、「認知症サポーター養成講座」の実績について、①住民 (介護相談員、認知症の人を対象とする家族の会、民生児童委員、ボランティア等)、②医療従事者 (医師、看護師等)、③介護従事者、④行政機関等 (行政職員、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会職員等)、⑤企業の各部門ごとに、平成 29 年 12 月から平成 30 年 11 月までに実施された開催回数が最上位のキャラバン・メイトについて、開催した講座の多様性等を考慮し、表彰対象としている。

# 認知症サポーター養成状況 優良自治体

「年間認知症サポーター養成数」（平成 29 年 12 月～平成 30 年 11 月）

●人口 5 万人未満

**群馬県下仁田町** 年間認知症サポーター養成数 747 人

（参考：累計 キャラバン・メイト+認知症サポーター数 1,222 人  
総人口に占めるメイト+サポーター数の割合 16.051%）

●人口 20 万人未満 5 万人以上

**茨城県つくばみらい市** 年間認知症サポーター養成数 1,629 人

（参考：累計 キャラバン・メイト+認知症サポーター数 6,588 人  
総人口に占めるメイト+サポーター数の割合 12.770%）

●人口 50 万人未満 20 万人以上

**東京都西東京市** 年間認知症サポーター養成数 3,128 人

（参考：累計 キャラバン・メイト+認知症サポーター数 19,839 人  
総人口に占めるメイト+サポーター数の割合 9.867%）

●人口 50 万人以上

**大阪府堺市** 年間認知症サポーター養成数 10,824 人

（参考：累計 キャラバン・メイト+認知症サポーター数 65,212 人  
総人口に占めるメイト+サポーター数の割合 7.758%）

選考にあたっては、年間（平成 29 年 12 月～平成 30 年 11 月）に養成された認知症サポーター数について、総人口に占める割合の値が最も高い市区町村を「人口 5 万人未満」「人口 20 万人未満 5 万人以上」「人口 50 万人未満 20 万人以上」「人口 50 万人以上」の 4 区分ごとに表彰対象としている。

※人口は総務省発表住民基本台帳による（平成 30 年 1 月 1 日現在）

※累計のキャラバン・メイト、認知症サポーター数は平成 30 年 12 月 31 日時点の数値。

## キッズサポーターによる創作・活動報告 受賞作品

- |      |  |                  |
|------|--|------------------|
| 最優秀賞 | ●〈個人〉五島市立三井楽中学校 2年<br>濱里 桜<br>(長崎県五島市)   | 〈作文〉             |
| 優秀賞  | ●宮古島市立狩俣中学校 1学年<br>(沖縄県宮古島市)   | 〈寸劇、シナリオ〉        |
| 佳作   | ●羽後町立羽後明成小学校 4年<br>(秋田県羽後町)  | 〈活動報告〉           |
| 佳作   | ●鹿児島市立喜入中学校 2年<br>(鹿児島県鹿児島市)   | 〈活動報告〉           |
| 佳作   | ●岐阜県立岐阜各務野高等学校<br>(岐阜県各務原市)  | 〈模擬訓練等活動の様子 DVD〉 |
| 佳作   | ●八潮市立八條北小学校 4年<br>(埼玉県八潮市)   | 〈受講後の感想・お礼の手紙〉   |
| 佳作   | ●茂原市立東部小学校 4年<br>(千葉県茂原市)  | 〈受講後の感想文〉        |
| 佳作   | ●甲斐市立<br>双葉西小学校 4年、竜王東小学校 4年、<br>敷島南小学校 4年、敷島北小学校 4年、<br>竜王南小学校 6年<br>(山梨県甲斐市) | 〈受講後の感想文〉        |
| 佳作   | ●常総市立豊田小学校 5年<br>(茨城県常総市)  | 〈俳句、作文(感想集)〉     |
| 佳作   | ●大垣市立興文中学校 2年<br>(岐阜県大垣市)  | 〈俳句、短歌、作文、マンガ〉   |
| 佳作   | ●〈個人〉大阪市立城東中学校 3年<br>中西 七海<br>(大阪府大阪市)   | 〈寸劇用シナリオ〉        |
| 佳作   | ●〈個人〉大阪市立平野小学校<br>(大阪府大阪市)   | 〈ロバ隊長クッキー(レシピ)〉  |
| 佳作   | ●〈個人〉糸島市立深江小学校 4年<br>森本 帆風<br>(福岡県糸島市)   | 〈ポスター〉           |
| 佳作   | ●〈個人〉入間市立金子小学校 5年<br>田口 優空<br>(埼玉県入間市)   | 〈受講者募集用ポスター〉     |

# 認知症サポーター優良活動事例とサポーターステップアップ講座展開優良事例 表彰団体一覧

## 自治体等認知症サポーターの活動事例

### ●上砂川町地域包括支援センター (北海道上砂川町)

#### ◆認知症サポーターと行政の協同により生まれた介護予防重視の認知症カフェ

選考理由: 認知症サポーターである住民がまちづくりの担い手となることを見据えた内容でステップアップ講座を開催することからスタートし、住民サポーターと行政が一堂に会し地域の課題を検討した結果として「認知症まちなかカフェ」の立ち上げにいたる。介護予防事業と連動した認知症カフェの運営が、カフェ利用者、認知症サポーターともに楽しみながら介護予防につながる効果を上げている。

### ●東伊豆町認知症にやさしい町づくり連絡会ニューサマーオレンジ (静岡県東伊豆町)

#### ◆町内会と企業とのネットワークを生かし、行方不明高齢者ゼロのまちへ

選考理由: 認知症サポーターの自主組織「ニューサマーオレンジ」を結成し、地域の認知症の人本人の具体的な個別ニーズに応じた支援を展開中である。スーパー、金融機関、交通機関等の企業や町内会など多様な機関との協力により、行方不明高齢者を出したことがない、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを実現している。

### ●社会福祉法人 益城町社会福祉協議会【特別賞】 (熊本県益城町)

#### ◆仮設団地のサポーター発案の認知症カフェが、住民同士支えあう土壌をつくる

選考理由: 平成 28 年 4 月の熊本地震後、避難所や仮設団地で暮らす高齢者の認知症の症状が悪化した現状に対応すべく、立場の異なる多職種のキャラバン・メイトによる連絡会を発足させた。仮設団地や災害ボランティアを網羅した認知症サポーター養成講座を行う過程で、住民自らが認知症カフェ開催を提案、住民同士が進んで支え合う関係性を構築し、災害復興に果たした功績はきわめて顕著である。

### ●群馬県認知症アンバサダー「あかぎ団」【特別啓発事例】 (群馬県)

#### ◆ご当地アイドル、認知症サポーターとして活動中

選考理由: ご当地アイドル「あかぎ団」メンバー全員が、自ら認知症サポーターになり積極的に認知症関連の啓発活動を継続している。各種イベントで認知症サポーターについて PR するなど、ファンのみならず多彩な住民層を巻き込んで、認知症への正しい理解を広げている功績は大きく、何より楽しく、現代的な活動手法は評価に値する。

### ●敦賀市【特別啓発事例】 (福井県敦賀市)

#### ◆小学生サポーター原作の教育映画がさらなる認知症啓発の扉に

選考理由: 小中学校で開催する認知症サポーター講座で「自分はなにができるか」を考える機会として、小中学生サポーター対象に作文コンテストを実施。最優秀作品を市民をあげて教育映画にした。認知症を理解する風土が醸成された地域で、さらなる普及啓発につながる実践的な試みといえる。

## 認知症サポーターステップアップ講座展開事例

### ●杉並区地域包括支援センターケア 24 善福寺 (東京都杉並区)

#### ◆課題解決型ステップアップ講座で、ボランティアの対応スキルを上げる

選考理由: 地域サロンで活動中のボランティアを対象に、現状における課題解決に資するロールプレイング等を取り入れた、実践的で双方向型のステップアップ講座を展開している。その結果、知識とスキルに裏づけされ、自信をもった対応のできるボランティアチームとして活動することで、認知症の人をはじめサロン利用者に随時必要とされる支援を実現している。

### ●広島市 健康福祉局 高齢福祉部 地域包括ケア推進課 (広島県広島市)

#### ◆サポーターの学習意欲に則ったステップアップ講座から地域のニーズを満たす活動を展開

選考理由: 認知症サポーターが自ら課題を発見、対応や交流の仕方、活動の企画を立てる内容を盛り込んだ、活動の発案など活動の継続に結びつく綿密なカリキュラムに基づくステップアップ講座を実施している。認知症カフェを立ち上げたことをはじめ、傾聴、見守りなどの活動に率先して関わり、地域包括支援センター等とも連携のとれた実践を進めており、認知症サポーターの学習・活動意欲を地域のニーズに対応させる取り組みとして優れている。

## 企業・職域団体における認知症サポーターの活動事例

### ●愛知信用金庫

#### ◆地域の実情を熟知し、自治体との協力基盤をもつ金融機関の挑戦

選考理由: 職員の大半が認知症サポーターとなり、県内各自治体、地域包括支援センターとの協力体制を構築し、業務を通して継続的に見守り等に貢献している。さらに職員が自治体のキャラバン・メイトとなり、地域包括支援センターと連携を図り認知症サポーター養成講座の講師を務めることにより、特殊詐欺等を未然に防ぐ取り組みなど金融機関の特性を生かした活動として高く評価される。

### ●朝日新聞社および朝日新聞グループ

#### ◆新聞販売所スタッフから新聞社社員まで、認知症の正しい理解普及に取り組む

選考理由: 140年の歴史を誇る新聞社として認知症の人本人の視点に立った報道、情報発信を行う業務と並行して、地域住民と接点の大きい全国の販売所(ASA)従業員をはじめとする職員 5000人超が認知症サポーターとなり、地域での見守りや、認知症の理解を促進する広報の実績を着実に積んでいる。

### ●株式会社 イトーヨーカ堂【継続・発展事例】

#### ◆行政、店舗社員との連携のもとに進化する総合スーパーの実践

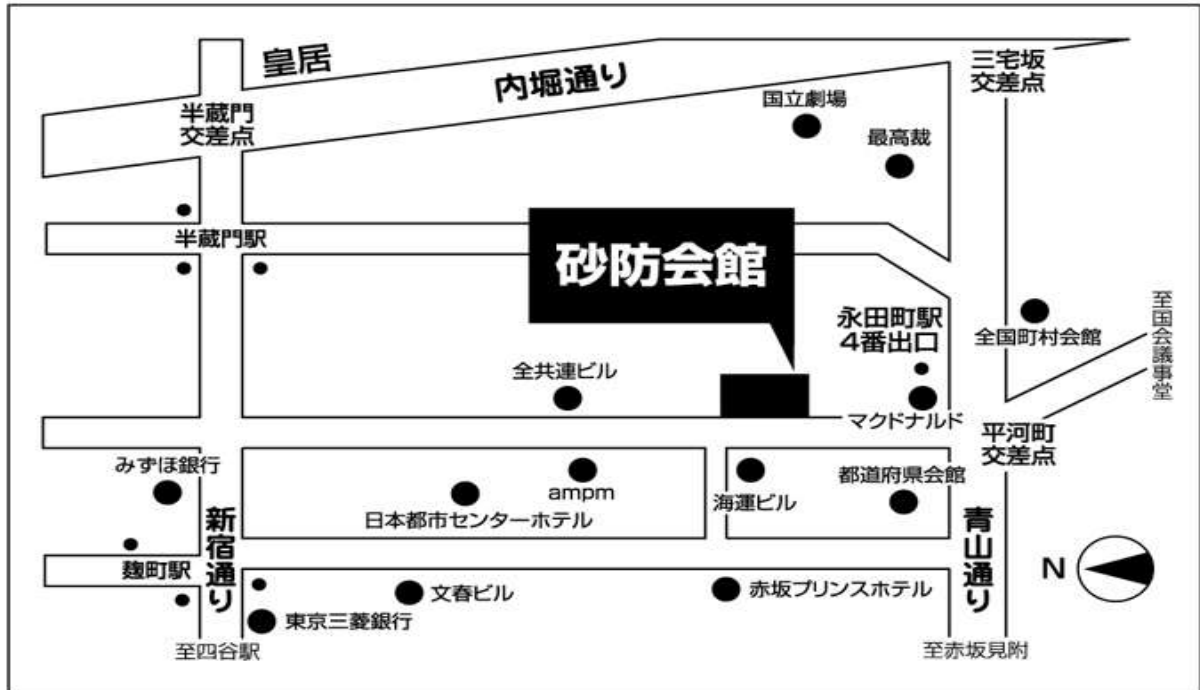
選考理由: 業務を通じた見守り事業や、認知症カフェ、啓発イベント開催等、地域住民でもある店舗勤務社員による認知症サポーターとしてのアイデアを生かし、地域の実状に応じた活動を継続、発展させており、生活関連企業の取り組みとして評価される。店舗と自治体との連携、また店舗と企業本部との連携も密接で即時性があり、確実に地域のニーズを満たしている。

## 【会場地図】

### ■砂防会館

■所在地 東京都千代田区平河町2-7-5  
TEL: (03) 3261-8386 (代表)

■交通 有楽町線・半蔵門線・南北線「地下鉄永田町駅」4番出口、徒歩1分



※上記会場へのお問い合わせは、会場へのアクセス方法のみとさせていただきますようお願いいたします。

〈ご参加申込書〉 FAX (03-3266-1670)でお申込ください

貴社名 \_\_\_\_\_ 所属 \_\_\_\_\_

ご氏名 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_